

構造改革徹底推進会合

# 我が国ベンチャーと世界展開

2016年12月12日

株式会社東京大学エッジキャピタル

代表取締役社長 郷治 友孝

# 世界における日本のビジネス環境

Ease of Doing Businessランキング  
(2016年6月)

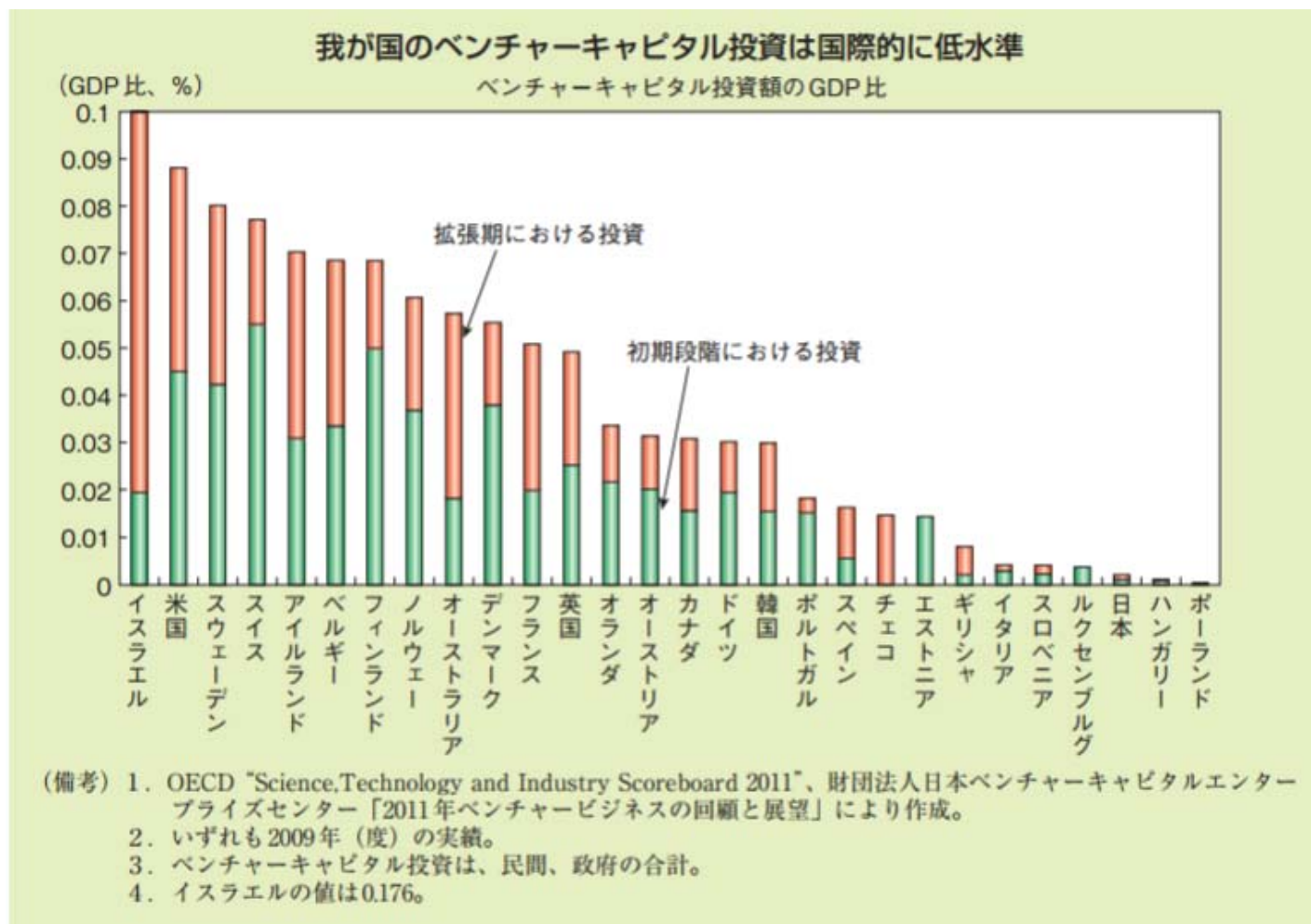
順位	国・地域
1	ニュージーランド
2	シンガポール
3	デンマーク
4	香港
5	韓国
6	ノルウェー
7	英国
8	米国
9	スウェーデン
10	マケドニア
...	...
34	日本

起業のしやすさ(Starting a Business)の  
項目ランキング(2016年6月)

順位	国・地域
1	ニュージーランド
2	カナダ
3	香港
4	マケドニア
5	アゼルバイジャン
6	シンガポール
7	オーストラリア
8	グルジア
9	アルメニア
10	アイルランド
...	...
89	日本

出典: 世界銀行(World Bank)

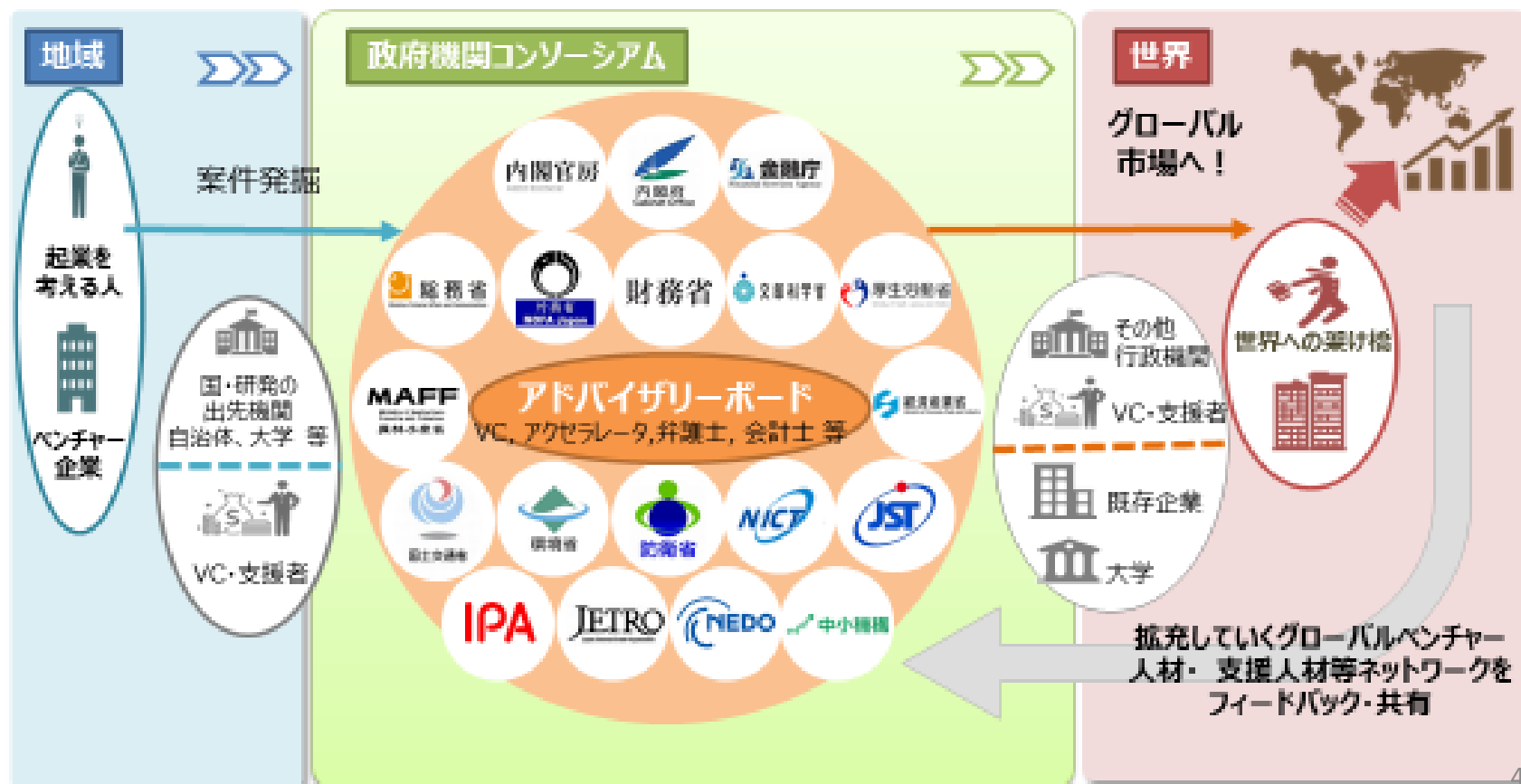
# 日本のベンチャーキャピタル投資水準



# 「ベンチャー・チャレンジ2020」

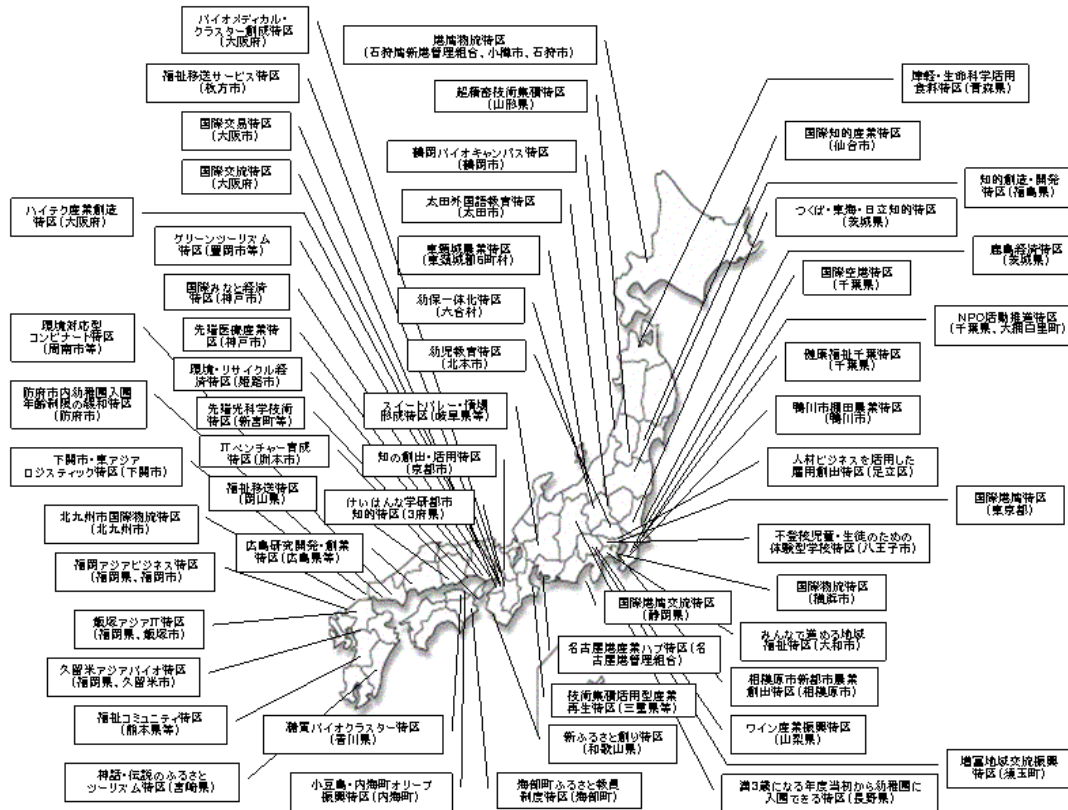
## (参考)「ベンチャー・チャレンジ2020」の概要

ベンチャー支援において関係府省庁等による連携を十分に図り、ベンチャーが自律的に次々と生まれる、ベンチャー・エコシステムを構築することは我が国の課題。

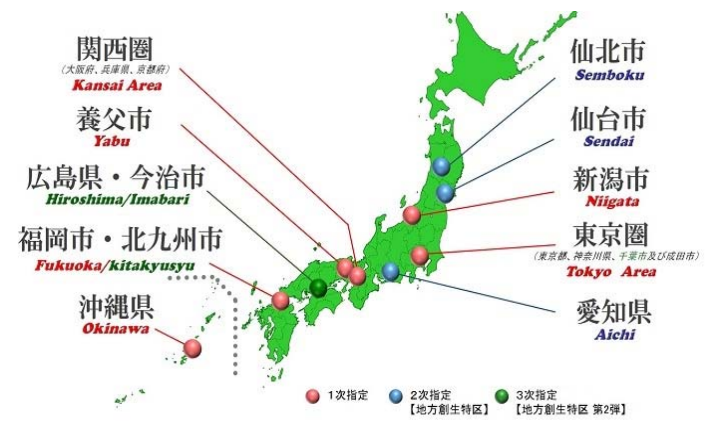


# 「特別区域」(特区)

1280件認定: 構造改革特別区域計画



10件認定: 国家戦略特区



# 「特別国家」イスラエル

1990年代初頭 イスラエルにVC産業は存在せず。

1992年 Yozmaプログラム始動。

国家予算1億ドル。民間は1.5倍の資本を集め、研究開発型ベンチャーに投資する10VC設立。

⇒大成功。今や対GDPベンチャーキャピタル投資額世界一を誇るハイテクスタートアップ大国へ。

【成功要因】

- ・運営ノウハウを有する民間VCを主体とした仕組み。
- ・国家予算の追い銭は出さない前提。
- ・政府出資持分を、民間VCに対し、当初決めきられた金額(政府出資額とその利子相当額のみ)で、5年後に払下げる仕組み。民間VCが自律的・持続的に発展するインセンティブ。

# 「特別国家」日本を

- ・各省庁ごと、各区域ごと ⇒ 全政府レベル、全国レベル
- ・国家予算の消化 ⇒ 民間が持続的、自律的に経済活動するインセンティブを確保し、予算「追い銭」の必要なく。
- ・世界から見て、ビジネスやVCに魅力的な「特別国家・日本」を。その中でも特に研究開発型ベンチャーに魅力的な環境を(後述)。  
【ビジネス環境】2025までに世界銀行 ランキング 10位入りを。  
【VC環境】2025までにOECDランキング 10位入りを。
- ・日本の技術と世界の優秀人材・市場を結び付けるベンチャーを。

# 本格的な研究開発型ベンチャーの エコシステム形成に向けた 具体的課題



# 新たなベンチャーエコシステム

○これからの第四次産業革命時代

本格的な研究開発型ベンチャー(VB):

社会課題を解決する、世界に先駆けた製品・サービスを生み出し、持続的に社会に新たな価値を与え続ける研究開発型VBが重要。

＝研究開発型企业は、日本の次世代の産業のみならず、世界の次世代の産業をかたちづくることが期待される。

⇒そのためには投資家とベンチャーのみならず、大学、既存企業（及び両者の産学協創）も加わった本格的なベンチャーエコシステムが自律的に循環し続ける仕組みづくりが重要

＝大学に期待される役割はより高まっている。

# ①大学が抱える課題

## 研究環境

### 【若手研究者】

- ・これからの研究開発型ベンチャーの技術シーズを支える、若手研究者の役割は今こそ重要。
- ・しかし、若手研究者ポストと研究資金が細っている現状。いくつかの国立大学では若手研究者採用が実質的に困難に。

### 【独創的研究の苗床】

- ・従来の発想にとらわれない、世界に先駆けた独創的研究成果に、研究開発型ベンチャーの強み。
  - ・しかし、目先の応用先のない基礎研究向けの資金は細っている。そのため大学の新規発明数も減少傾向。
  - ・新規の研究成果を特許化するための予算も同様に細っている。
- ⇒能力ある若手研究者が連綿とポストを得、独創的な研究成果を産み出し続けられる環境を取り戻すことが必要ではないか。
- ⇒目先にとらわれずに独創的研究を行い得る基礎研究環境や、新規の研究成果の知財化のための環境が必要ではないか。<sup>10</sup>

## ②研究開発型ベンチャー(VB)が抱える課題

### 研究開発型VBの資金調達

- ・民間レベルでは、研究開発型VBのシードステージに投入できる資本が不足しているわけではない。近年では日本のVC投資もシード/アーリーが大半。
  - ・一方、1VB当たりの日本のVC投資額は米国やイスラエルに比べ小さく、ミドル/レーターステージ以降に世界市場で戦えるようになるための資本が圧倒的に不足。
  - ・第四次産業革命時代の研究開発型VBは、研究開発と事業化の双子のリスクを抱えるが、特に、ミドルステージ以降の頓挫リスクが大きい。
- ⇒シードステージについては、多様で創意工夫に富む民間資本が自律的に流れ込む仕組みづくりが重要ではないか。
- ⇒研究開発型VBが世界市場での事業化を成功させるためには、ミドルステージ以降の足の長いリスクマネー供給こそが求められているのではないか。そこが確保されればシードステージへの資本流入も円滑かつ持続的になる。

# ③政府調達的重要性

## 政府による研究開発型ベンチャー(VB)製品の調達

・米・イスラエルでは、政府によるイノベーターな調達の受け皿として、研究開発型ベンチャーを積極活用、ベンチャーエコシステムの一端を担う。弊社の米国投資先でも実例、日本ではなし。

・政府調達は、研究開発型VBの売上・信用力も上がり、民間からの持続的ビジネスにつながる。同額の補助金一回限りよりもはるかに効果的。売上を立てて返済を求められることもない。

⇒日本の研究開発型ベンチャー向けの予算措置のうち補助金の一部を、政府調達型に転換すべきではないか。

⇒政府現方針の確実な実行はもちろん、さらに一步踏み込むことが必要ではないか。

「第5期科学技術基本計画」(平成28年度から平成32年度までの5年間を対象)より  
中小・ベンチャー企業が行う先進的な技術やサービスとして提供される新規事業等の立ち上げにおいては、市場創出が大きな課題となる。このため、市場創出の呼び水としての初期需要の確保、新製品等の有効性評価や評価結果の反映、販路開拓支援等の観点から、国が需要側の視点に立った施策の充実を図る必要がある。

# 研究開発型VBをめぐる資金的課題イメージ図

